

# 特殊金属エクスセル 設立80周年

特殊鋼やステンレスの冷間圧延加工などを手掛ける、特殊金属エクスセル（本社＝東京都豊島区）は、2020年5月に設立80周年を迎えた。10年から4代目トップを務める谷口毅社長兼CEOに節目を迎えたい、将来ビジョンなどを聞いた。

設立80周年を迎えたい、将来ビジョンなどを聞いた。

「この80年で鉄鋼、非鉄金属業界はグローバル形態で存続し、拡大を果たすことができたのは顧客をはじめ母材メーカーや商社、流通や外注加工先、副資材メーカーの協力によってインテグラル型のモノづくりで徹することができたためであり、感謝したい」

「創業者で曾祖父の谷口周は若かりし頃より高砂鉄工の前身・東京機材工業所に入社し、現在の日本金属である東京伸鉄所の設立にも参加。当時、海外製圧延機からの脱却を目指した挑戦が行われた中、極薄圧延機の国产化へ貢献した。これらを通して得た知見やノウハウ、経験を生かし、創業したのが当社の始まり

とみる。以降、自社設計による製造設備を駆使し、極薄板の厚み制御、冷間圧延と熱処理技術を組み合わせた金属組織制御をコア技術としていた。特殊鋼力ミソリ材など、当時からニッチ分野に力を注いできたが、市場が拡大するに従って優位性を失うニッチ分野もあり、当社が撤退を余儀なくされるなど成長と安定性に課題を抱えていた。これをクリアするた

め、一定分野に軸足を置きすぎず、用途の裾野を広げることで多様な産業とつながるような製品開発に努めることに、さまたま鋼種や加工技術のレパートリーを増やして、対応力に磨きをかけた。その結果、冷間圧延加工分野において、個社でさまざまな金属材料を手掛けるローラー転換を得意とし、95年に磨帯鋼振興会を退会した。さらにトヨタ自動車のO B 2人を迎え、モノづく

り革新に向けた特異なノベーション活動を2004年から8年間継続し、自ら率先して改善する風土を醸成するに至った。これがベースとなり、1マン・シヨック後で厳しい経営環境が続く中、13年4月に1008人の有志が集まり、品質革新を意欲したプロジェクトQ I V 108が始動。14年度には12年度比40%減の不良金額低減を実現した。最後に17年1月にホ

の、単月受注金額は5月を底に徐々に復調し、9-11月の3カ月移動平均受注金額は同比3%減まで回復基調となり推移している。海外は中国2社、台湾、香港ともにコロナの影響は幸いにも軽微で、4社ともに予算目標値を達成できるだろう。連結経営利益は前期並みを維持できる見込み。特に特殊金属エクスセルは損益分岐点を2割程度引き下げる

ことができたことで、コロナの状況下でも単月で黒字を維持できる体質を構築できた効果は大きく評価されている。国内外5社で拠点・部門横断型のクロスファンクショナルチームを編成し、新規販路、品質向上や新製品開発などの目標を設定して、連結業績を自己目指している。一方、業務効率化と顧客価値創造の二兎を追うた

「先に見える未来は、従業員に伝えたいことは、得たい大きな自信を胸にこれから新たなチャレンジに向けてギアを上げていく」と

## 真のグローバルニッチへ



社長兼 CEO 谷口毅

「創業者で曾祖父の谷口周は若かりし頃より高砂鉄工の前身・東京機材工業所に入社し、現在の日本金属である東京伸鉄所の設立にも参加。当時、海外製圧延機からの脱却を目指した挑戦が行われた中、極薄圧延機の国产化へ貢献した。これらを通して得た知見やノウハウ、経験を生かし、創業したのが当社の始まり

## 独自製品商品比率 5割に引き上げ

### ◆ 80年の歩み ◆

| 年    | 月  | 出来事  |
|------|----|--|
| 1940 | 5  | 特殊金属圧延工業所を板橋（東京都板橋区前野町）に設立   |
| 1948 | 5  | 特殊金属工業に改組、戦後、東京都鉄骨建築第1号となる焼鈍工場を建設                                  |
| 1952 | 6  | ステンレスの冷間圧延材料の生産に着手   |
| 1956 | 4  | 1027厚さの冷間圧延材料製造技術を確立   |
| 1967 | 8  | 韓国金属（現HANKUM CO., LTD）に対し、冷間圧延技術を供与                                |
| 1968 | 11 | 創業者・谷口周、極薄帯鋼圧延機の開発功績が認められ、紫綬褒章を受章                                  |
| 1973 | 4  | 長野特殊金属工業を設立  |
| 1974 | 4  | 大阪特金商事、福井特殊金属工業を設立   |
| 1982 | 3  | 埼玉特殊金属工業を設立し、世界で最初にZHインサート（18段ローラー）を組み込んだ圧延機稼働を開始                  |
| 1986 | 4  | 埼玉特殊金属工業への生産設備の集約を開始   |
| 1987 | 3  | ステンレス箔の生産を開始   |
| 1988 | 3  | 台湾特殊金属股份の操業を開始   |
| 1990 | 4  | 大阪特金商事と埼玉特殊金属工業を吸収合併   |
| 1992 | 3  | 機能性アレーコート材料(OVIONE)の出荷を開始  |
| 1998 | 11 | 上海隆興の操業を開始   |
| 1999 | 4  | クラッド・ハンダ・塗装技術を核にした複合材料製造を開始  |
| 2000 | 2  | 福井特殊金属工業を吸収合併  |
| 2002 | 9  | 長野特殊金属工業を吸収合併  |
| 2007 | 11 | 上海帝印複合材料を設立  |
| 2008 | 2  | 特殊金属工業から新商号・特殊金属エクスセルに変更   |
| 2011 | 11 | 香港特金を設立  |
| 2016 | 1  | 経営戦略「Be a Niche-Top!」開始  |
|      | 9  | 東京都中小企業振興公社発行の「東京のキラリ企業200社」に選出                                    |
| 2017 | 1  | 特殊金属エクスセルがトッキンHDに商号変更、会社分割により、特殊金属エクスセルを新設                         |
|      | 4  | 東京都中小企業振興公社のグローバルニッチトップ支援事業に採択                                     |
| 2018 | 9  | 第41回日本金属学会技術開発賞受賞(TOKKIN350JIN)                                    |
| 2020 | 1  | コールドスプレー(CS)法による複合機能材料の供給開始、高強度高延性ステンレス(JIN)と超微細粒鋼(nanoSUS)シリートを拡充 |

「100年企業に向けてのビジョンを。『100年継続するエクスレントカンパニー』を自己目指し、Be a Niche Top!」戦略を推進している。他社の追随を許さないレベルまで技術を磨き、唯一無二の製品を市場に投入することで、顧客が市場の勝者になるべくサポートし、市場の夢を叶える。これによって、当社の独自製品群の商品比率を現行3割から5割に引き上げ、真の意味でのグローバルニッチ企業を実現していきたい」

（濱坂 浩司）